

出張報告書

令和7年9月12日

名古屋市会議長

西川 学 様

名古屋市会議長

西川 学

名古屋市議員

吉田 茂

日比 美咲

さかい 大輔

大谷 ともひろ

令和7年7月2日付の議決に基づき、令和7年8月7日から8月8日まで、名古屋市会陸前高田市友好交流議員団として、陸前高田市へ出張しましたので、その概要をご報告します。

議員の派遣（抜すい）

令和7年7月2日

地方自治法第100条第13項及び名古屋市会会議規則第54条の2の規定により下記のとおり議員を派遣する。

記

2 名古屋市会陸前高田市友好交流議員団

- (1) 派遣目的 陸前高田市表敬訪問
名古屋市会と陸前高田市議会との友好交流協定に基づき招請を受けた行事参加
- (2) 派遣場所 陸前高田市
- (3) 派遣期間 令和7年8月7日から8月8日まで
- (4) 派遣議員
西 川 学 吉 田 茂 日 比 美 咲
さかい 大 輔 大 谷ともひろ

目 次

はじめに		1
日程		2
名簿		3
8月7日(木)		4
気仙町「けんか七夕」	招請行事参加	
陸前高田市役所	議長表敬訪問 市長表敬訪問 議員懇談会	
高田町「うごく七夕」	招請行事参加	
8月8日(金)		12
陸前高田市立博物館	施設視察	
高田松原津波復興祈念公園	施設見学	
旧吉田家住宅主屋	施設視察	
総括		18

はじめに

名古屋市会陸前高田市友好交流議員団は、令和7年8月7日(木)及び同月8日(金)に、陸前高田市において招請行事参加・表敬訪問・施設視察等を行った。

以下、その概要を、日を追って順に報告する。

名古屋市会陸前高田市友好交流議員団日程

8月 7日(木)	県営名古屋空港	空路 いわて花巻空港へ
	いわて花巻空港 陸前高田市	○気仙町「けんか七夕」招請行事参加 ○陸前高田市議会議長表敬訪問 ○陸前高田市市長表敬訪問 ○陸前高田市議会議員との懇談会 ○高田町「うごく七夕」招請行事参加 【大船渡市泊】
8日(金)	陸前高田市	○陸前高田市立博物館視察 ○高田松原津波復興祈念公園視察 ○旧吉田家住宅主屋視察
	いわて花巻空港 県営名古屋空港	空路 県営名古屋空港へ

名古屋市会陸前高田市友好交流議員団名簿

名古屋市会議長 西 川 学

名古屋市会議員 吉 田 茂
(自由民主党名古屋市会議員団 政調会長)

日 比 美 咲
(名古屋民主市会議員団 政審会長)

さかい 大 輔
(公明党名古屋市会議員団 政調会長)

大谷 ともひろ
(減税日本ナゴヤ 政審会長)

〔随行〕

市会事務局担当課長 鶴田 正和

令和 7 年 8 月 7 日(木)

8 月 7 日午後に陸前高田市に到着した友好交流議員団一行は、まず、招請行事である気仙町「けんか七夕」を見学・体験した。その後、陸前高田市役所において、陸前高田市議会議長への表敬訪問、続いて陸前高田市長への表敬訪問、陸前高田市議会議員との懇談会を行った。夕方以降には招請行事である高田町「うごく七夕」を体験した。

気仙町「けんか七夕」

「けんか七夕」は気仙町今泉地区で行われている 900 年の伝統を受け継ぐ祭りで、岩手県指定無形民俗文化財にも指定されている。山車と山車をぶつけ合う勇壮な「けんか」が繰り広げられ、大いに盛り上がる祭りである。



↑ 山車を観察する様子



↑ けんか七夕へ飛び入り参加

長さ約 15 メートルの丸太が付いた山車には長い綱が取り付けられていて、掛け声に合わせて参加者が一斉に綱を引くことで、2 台の山車が勢いよく引き寄せられ思い切りぶつかるのであるが、その瞬間の迫力は目を見張る

ものがあり、会場は熱気に包まれていた。

当初、議員団は見学だけの予定であったが、急遽飛び入り参加し、他の参加者とともに汗を流しながら綱を引っ張らせていただいた。山車の上では太鼓や笛が演奏され、お祭りならではの賑やかな雰囲気の中、時間が進むにつれ、山車の周りには地元の方や観光客が増えていった。

それでも、震災やコロナ禍の影響もあり、山車の引き手をはじめ祭りの担い手が確実に減少してきており、他の地域から応援で参加いただいている方が増えている状況とのことであった。お話を伺った保存連合会の方々も今の状況には大変危機感を示されており、今後、いかにして参加者を確保していくのか、祭りを継続していくためには民間企業や他の自治体を含め、地元の外からの支援がより一層必要な時期に来ていると感じた。

陸前高田市役所

○及川議長表敬訪問

■対応者 及川 修一 議長

陸前高田市議会の及川修一議長からの歓迎のあいさつの後、陸前高田市や名古屋市の近況等について懇談した。



↑ 及川議長との懇談



↑ 集合写真

○佐々木市長表敬訪問

■対応者 佐々木 拓 市長
石渡 史浩 副市長



↑ 西川議長からあいさつ



↑ 集合写真

陸前高田市の佐々木市長、石渡副市長、名古屋市会友好交流議員団からそれぞれ自己紹介を兼ねたあいさつを行った後に、佐々木市長からお話を伺った。

佐々木市長のお話の概要は以下の通り。

(佐々木市長)

名古屋市会の皆様におかれては、陸前高田まで何度も来ていただいている方も多く、改めてお礼を申しあげる。戸羽前市長の時代からお世話になってきたが、名古屋市さんも河村前市長から広沢市長に代わられた。市長が誰になろうとも今後もずっと絆を繋ぎながら、この絆を大切にしていきたいと思います。

今回は陸前高田の中心である高田町と気仙町で七夕が開催されるタイミングで来ていただき、祭りにもご参加いただけるということで嬉しく思う。二つの町は津波の被害が最も大きかった町である。けんか七夕の山車もかつては地区ごとに 8 組程あったが、被災により今は 2 組のみになってしまった。その 2 組も全国の色々な方々から応援に来ていただき、何とか実施している苦しい状況であり、今後どのように継続していくか地元を中心に議論を

進めなければならない。

昨日は法政大学の学生さんも来ていただいたが、学生、企業等からも支えていただきながら、震災でコミュニティが甚大な被害を受けた中でどのように維持していくか、形を変えながらも祭りを継続していく方法を考えてまいりたい。

今年は3月23日の「絆の日」に名古屋市を訪問し、防災関係のイベントに防災課長と共に出席した。名古屋を訪問して、本当に皆様方に親切に大切にしていると感じたところである。

先ほど、来年のアジア・アジアパラ競技大会の話伺ったが、実は陸前高田市に佐藤^{よしこ}佳子というトライアスロンの選手がいてアジア競技大会に出場予定である。本人は東京出身であるが、旦那様が陸前高田出身の砲丸投げのアスリート。そして、その旦那様のお父様は震災で亡くなられたが、この市役所で働かれていたというご縁もある。陸前高田市を挙げて、この2人のアスリートを応援しているところである。

これからも是非、両市の良い関係を継続し、発展させてまいりたいので、よろしくお願いします。

○陸前高田市議会議員との懇談会

及川議長はじめ陸前高田市議会議員の皆様（8名）にお集まりいただき、及川議長と西川議長のあいさつの後、各議員の自己紹介と懇談が行われた。懇談の概要は以下の通り。



↑ 陸前高田市議会議員の皆様との懇談の様子

(名古屋市)

東山動植物園の一本松（の後継樹）に関して、名古屋の暑さのご心配をいただいた。先だって名古屋市のガーデニングクラブが東山で開催され、その際にも確認したが、青々と元気に立派に育っていた。

先日の子ども市会では、名古屋の子どもたちにも陸前高田市と名古屋市との繋がりを説明する中で、東山動植物園に陸前高田の奇跡の一本松がある、と伝えたところである。

(名古屋市)

名古屋市の応援職員も地元を離れて、別の都市に住むことになるので、環境が違い、色々と苦労することはあると思う。ただ、職員は名古屋市にとって宝物であるので、カウンセラーも入れながら、精神的なフォローをしっかりとやってほしいと市会側からもお願いしている。

(陸前高田市)

かつて高田町は13台の山車を持っていたが、8台にまで減ってしまった。19 時頃にアバッセたかた周辺に集まってくる。皆さんには中央組の一員として、うごく七夕に参加いただく。

けんか七夕の柱は藤の弦で結んでいる。ボルト等では外れてしまうと思う。昔、死人が出たことがあり、暫く開催できなかったとも聞いている。

灯籠七夕も 11 日に予定しているし、昔はそれぞれの町に七夕があり、海上七夕という祭りもあった。

(陸前高田市)

震災の影響を受けて、気持ちを前向きに盛り上げるという意味ではお祭りというのは大きな力があると思う。今日の祭りのために帰省する人も大勢いる。

何カ月も山車に上って作業をして完成させる、それも含めて祭りなのだが、人が足りなくなっている。

(陸前高田市)

災害の時にお互いに助け合うという精神は、祭りで普段から人と人が繋がっているところから生まれると思う。それが希薄になってくると防災上も影響が出てくる。

(名古屋市)

我々も伊勢湾台風で被災して、祭りが無くなった地区も沢山あると親の代から聞いている。震災の影響の大きさを痛感する。



↑ 集合写真

高田町「うごく七夕」

「うごく七夕」は先祖供養を目的として始まったとされる高田町の夏の伝統行事である。東日本大震災以降は犠牲になった方々への鎮魂の思いや、復興支援への感謝の気持ちも込めて開催している。

地域ごとの組がそれぞれ自慢の豪華絢爛な山車を引いて、お囃子を演奏しながら市街地を練り歩いて行く。夜になり山車に灯りが灯された後は、特に幻想的な雰囲気醸し出していった。市街地にある「アバッセたかた」に各地域の山車が一堂に会し、祭りの終盤は観覧する人々で沿道が溢れ、大いに盛り上がりを見せていた。お盆で地元へ帰省されている方たちの多くも、この七夕祭りに合わせて帰って来られるとお聞きした。



↑ 中央組の参加者へ挨拶



↑ 山車を引いて市街地中央部へ

今回、友好交流議員団は「中央組」の一員となり、同じTシャツを着用した上で山車の引き手役として参加させていただいた。最初の中央組の集合の際に、組の皆さんに名古屋市会として自己紹介と挨拶を行った。参加者の中には、地元住民以外にも関東のいくつかの大学がフィールドワーク等を目的に参加しており、若者が多く参加することで祭りの盛り上げに一役買っているように感じた。

議員団は実際に他の組員の皆さんと一緒に掛け声を発し、山車を引きながら、祭りに参加することで、組としての一体感や受け継がれてきた伝統の重みを大いに感じる事ができた。終盤に通り雨に降られたが、何とか最後まで中止することなく、祭りを終えることができた。

また、震災の前は、七夕終了後も市内で山車を展示するのが恒例であったとのことであるが、今年は山車の展示を 15 年ぶりに復活させることが決まり、翌日の 8 月 8 日から 1 週間、アバッセたかた内の駐車場で 3 台が展示されるとのことであった。



↑ 他の組と山車の華やかさを競い合う



↑ アバッセたかたに集まる山車

令和7年8月8日(金)

8月8日は、午前中に陸前高田市立博物館、高田松原津波復興祈念公園を、午後には旧吉田家住宅主屋を訪問し、それぞれ視察を行った。その後、いわて花巻空港から帰名した。

陸前高田市立博物館

○博物館施策視察

■対応者 熊谷 賢 博物館主任学芸員
及川 修一 議長

陸前高田市立博物館では、熊谷学芸員の案内のもと館内全体について詳細な説明を受けた。視察した主な事項は以下の通り。



↑ロダン像の説明を受ける様子

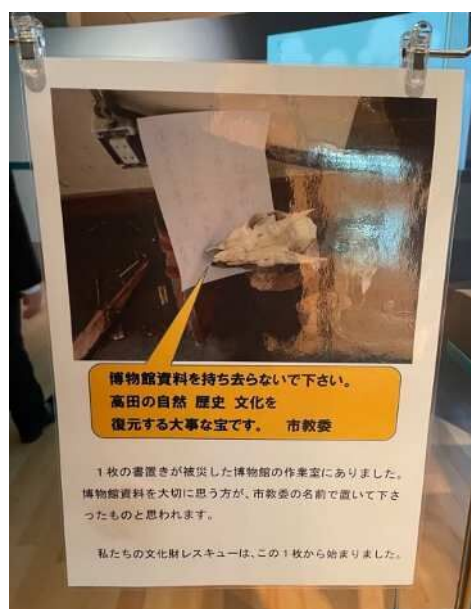


↑名古屋市博物館からのメッセージ

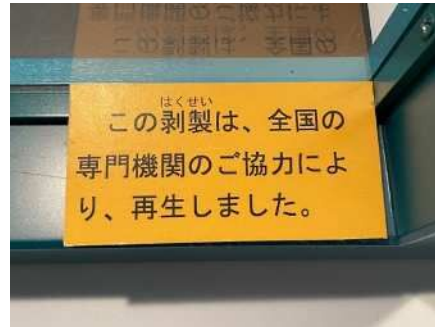
○昭和 34 年に開館した旧博物館は、東日本大震災により施設が全壊し、資料も壊滅的な被害を受けた。被災した資料、約 56 万点のうち約 46 万点について、全国の専門機関の協力のもと救出し、修理作業を行った上で展示している。リニューアルした博物館は令和 4 年 11 月に開館した。

○名古屋市博物館のリニューアル改修の間、同博物館所蔵のロダンの「考える人」が陸前高田市立博物館に貸し出され、令和 5 年 11 月より 1 階エントランス部分に展示されている。彫刻の横には名古屋市博物館からのメッセージも置かれ、ロダン像の説明は勿論、両市の教育委員会の間で締結した「絆協定」の概要についても記載されていた。また、名古屋市の中学生から陸前高田市の中学生へのメッセージが付箋で貼られていた。

○「博物館資料を持ち去らないでください。高田の自然、歴史、文化を復元する大事な宝です。市教委」と書かれた書き置きが、被災した博物館に残されており、資料の救出に奔走する職員たちに大きな勇気を与えるものとなった、とのことであった。資料展示の導入部分に博物館再生のシンボルとして展示されている。

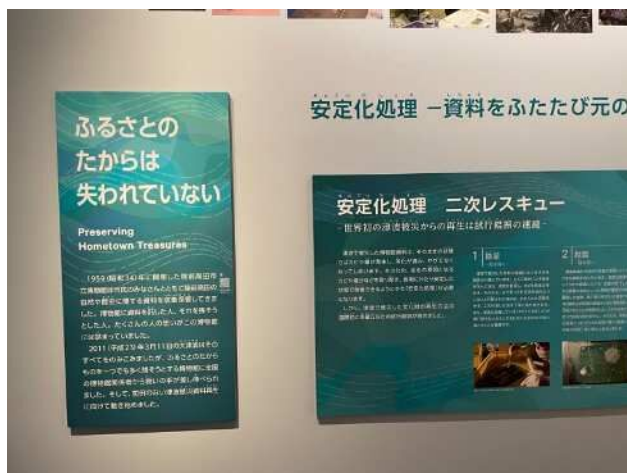


↑ 資料を救出するきっかけとなった書き置き



↑ 専門機関の協力により再生された剥製

○被災した文化財の救出作業の状況や、全国の博物館の協力で蘇った文化財の修復の過程が紹介されていた。世界に前例のない津波被災資料再生は、劣化の原因となるカビや塩分等を除去し、長期にわたり安定した状態で保管できるようにする安定化処理が必要であった。資料の再生に携わった全国の多くの方の熱意により、陸前高田市立博物館が再度の開館まで辿り着いたということを実感した。



↑ 展示資料の復元に向けた安定化処理の説明

高田松原津波復興祈念公園

東日本大震災津波の事実と教訓を伝えるため設置された東日本大震災津波伝承館や奇跡の一本松のある高田松原津波復興祈念公園に立ち寄り、短時間であったが見学を行った。



↑ 復興祈念公園のマップ



↑ 津波により流失した気仙大橋



↑ 被災状況をまとめたパネル



↑ 奇跡の一本松

旧吉田家住宅主屋

○文化財保護施策視察

■対応者 佐々木 敦美 教育委員会教育総務課副主幹（兼文化財係長）
及川議長ほか陸前高田市議会議員の皆様

旧吉田家住宅主屋では、陸前高田市議会議員の皆様と共に、陸前高田市教育委員会の佐々木副主幹の案内のもと主屋の復旧作業等について詳細な説明を受けた。また、大学のゼミの活動の一環で施設見学に来られていた名城大学の学生の皆さんと議員団が懇談する一幕もあった。

視察した主な事項は以下の通り。



↑ 復旧した主屋の外観



↑ 復旧作業について説明を受ける様子

○吉田家は江戸時代に仙台藩気仙郡の24箇村を統治していた「大肝入^{おおきもいり}」（地方役人における最上位の職）で、その主屋は1802年に建てられた。今泉地区の歴史や文化を知ることができる財産として、長く親しまれてきたが、平成18年に主屋、土蔵、味噌蔵、納屋の4棟が県の有形文化財に指定された。

○東日本大震災により全壊し部材も散在したが、吉田家当主と地域住民が部材回収に奔走、全体の6割程度を回収し、復旧作業が令和3年度から本格化した。歴史的価値を有したまま復旧が可能であるとして、県の文化財として主屋1棟のみが指定の継続となった。多くの関係者の支援を受けながら、本年3月に完成し、5月23日に待望の開館を迎えた。

○震災後に瓦礫の中から回収した部材は、海水に浸かり、津波の衝撃でダメージを受けているものもあるため、1本ずつ強度を確認して使用している。回収した部材を、新しい部材と継ぐために、ねじるようにしながらかみ合わせている。気仙大工左官の匠の技術が随所に盛り込まれている。

○長い年月を経て囲炉裏の煙で燻されて黒くなっている古い部材と、新しい部材との対比で、その歴史が際立っている。

○被災した部材が以前の吉田家のどの部分に当てはまるのか整理するのに長い時間を要した。また、木材や土壁は乾燥させることが重要であり、着工から完成まで3年8カ月という長い時間がかかることで、乾燥できたことは再現性の高い復旧に繋がった。



↑ 名城大学の学生と懇談する様子



↑ 集合写真

■総括

2日間という短い日程ではあったが、名古屋市会陸前高田市友好交流議員団として、陸前高田市の議長、市長はじめ市職員や視察先の施設の方、さらには地元の市民の方など、非常に多くの方と懇談・交流することができ、陸前高田市の現状を肌で感じ、学ぶことができた。

地元の長い歴史のある祭りである「けんか七夕」と「うごく七夕」の両方に参加させていただくことができたのは、大変貴重な体験となった。祭りの見学・体験を通して、過去の伝統を継承しながら、担い手不足等の課題について向き合い克服していこうとされている地元の方の強い思いを感じた。

また、陸前高田市立博物館と旧吉田家住宅主屋はいずれも震災によって被災した施設であるが、展示していた文化財や住宅の部材を一つ一つ集めて再オープンや復元にまで至ったという事実は、関係者の本当に気の遠くなるような努力の賜物であり、頭が下がる思いである。陸前高田の歴史を後世に繋いでいく上で、非常に大切な施設になっていくであろうと感じた。

最後に、2年ぶりに議員団として陸前高田市を訪問し、非常に濃い内容の交流ができたのではないかと感じている。お招きいただき、訪問中、大半の時間をご同行いただいた及川議長やご対応いただいた陸前高田市議会議員の皆様、また、今回の訪問の調整のためにご準備いただいた陸前高田市議会事務局の皆様、さらには陸前高田市民の皆様に、この場をお借りして感謝申し上げる次第である。